ともがき

発行所
東京都立三田高等学校
青葉会
（同窓会）
港区三田1丁目4番46号
電話（453）1991代

ご挨拶

青葉会名誉会長
学校長
藤川侃二

同窓会の皆様、ご健勝でご活躍のこととこころからお慶び申し上げます。

本年四月、東京から南へ千キロ離れた都立小笠原高校より本校に着任いたしました。

本校に着任早々、本校のある先生から「東京府立第六高等女学校」という初代校長丸山丈作先生の懐古記なるものをいただきました。

丸山先生は、東京高等師範学校を卒業後、府立第三高女（現在の都立駒場高校）の教頭を経て、大正一二年本校の初代校長に着任、昭和四年に働きながら学ぶ者のために私立第六高女夜学校を設立されました。先生は十八年間の長きにわたり、昼夜の区別なく本校の教育の充実発展に尽力され、数多くのユニークで特色のある学校経営を行ないました。中でも特に力を入れたことは、健康で持久力・体力のある生徒の育成に努めたことでした。入学試験に「体操」の課目を入れたり、「四十キロ遠足」を実施するなど、現在学校で行なわれている「体力づくり」を先取りした教育を行ない高い教育効果を上げたことを知りました。

本校の教育目標の第一にかかげられている「健康な人になろう」は、丸山校長先生の教育理念が校是として脈脈と流れている証左に外ならないと確信いたしております。

今後の社会は、国際化、情報化がますます進み、「たくましいチアレンジ精神」や「変化に敏感な感性」そして、「世界に通じる広い視野」をもった人間を要求しています。

その基盤は何といっても、「こころとからだの健康」であると信じます。

同窓会の皆さんが築き上げてくださった本校のこの偉大な歴史と輝かしい伝統の基盤の上に立って、二十一世紀にたくましく生きる生徒諸君の教育に全力を尽して参る所存です。

どうか、同窓会の皆さんのなお一層の力強いご支援とご協力をこころからお願い申し上げます。

意欲開発を
—着任に際して—

青葉会名誉副会長
教頭
内藤　伸

大方の都立高校が、戦後間もない二十年代に定時制を併設したが、本校はそれらと異なり、確固たる教育理念のもとに、昭和の初年に創設されたと聞く。その伝統ある三田高等学校に、教頭として赴任できたことに誇りを感ずると同時に、責任の重さを痛感している。

この原稿依頼の際に「ともがき」のバックナンバーを揃えて持参した役員の心配りは青葉会の知性を見る思いであった。それに感謝しつつ、記事に目を走らすと、青葉会の皆さんがいかに本校を愛しているかが、手に取るように理解でき、感心させられた。また、「会員だより」の欄からは、社会での皆さんのご活躍をはっきりと知ることができ明日の会員である生徒を指導する身としての責務の大きさに心を新たにした。

私の教育的信念は、「意欲を育てる」ということにある。何事をするにも、意欲があれば不可能なことはない。「今の若者は」の批判をよく耳にするが、その根底は意欲のなさであり、責任の一端は世の大人たちにある。有史以来の物質の豊富さは、心の成長を時に妨げ、子どもの忍耐力を弱めてしまった。本校の生徒も、残念ながら、その傾向なきにしもあらずである。先輩の皆さんからみて、歯がゆく感ぜられるであろうが、長い目で見て戴きたい。

現在の定時制担当職員は、講師・事務系職員を含めて三十七名である。生徒数は、今年度百七十名で出発し、九月現在百六十三名である。さすがに三、四年生の退学者は殆どなく、本校を卒業した者は、すべてよき青葉会員になれるものと信じている。やはり夜間定時制という厳しい条件の中で卒業に漕ぎつけた生徒は、必ず社会で活躍出来る人間であろう。私達教職員は、彼等を建設的な会員として青葉会に送り込むためにも、日々の教育がもっとも大切なものと考え、卒業を目指して、指導に全力を注ぐつもりである。

その点、本校の教職員は他校から羨ましがられる程、優秀な人材が揃い、ご期待に沿うことが出来ると信じている。

去る九月十三日、生活体験発表会が赤羽小学校講堂で行われた。各クラスから選ばれた代表が、自分の生い立ちや環境を赤裸々に述べ、いま本校で学べる幸せをもとに、これからの希望と決意を堂々と発表し、聴き手の教師と生徒に大きな感動を与えた。また、九月末の学校祭も、よき伝統を受け継ぎ、各クラスの一人ひとりが一致協力して出し物を考え、立派な発表を行なった。これらは教職員の指導もさることながら、先輩諸氏の創ったよき伝統の賜に外ならない。私は、いま世間で提唱されている生涯教育を、それに先立って、その趣旨を実行して来た青葉会の諸氏の洞察力に、深い敬意を表するものである。これからも青葉会が益々発展して、自己啓発と会員相互の親睦に寄与するとともに、母校の隆盛に助勢されることを願って筆を措きたい。

吉田元定先生 勲四等瑞宝章 叙勲さる

母校第九代校長（昭和46年カラ50年マデ）であられた吉田元定先生には本年四月二十九日栄誉ある叙勲を受けられました。この績に対し去る10月28日有志先生の偉集い、中大なお業野・日本閣において祝賀の宴が盛大に行なわれました。先生は現在トキワ松学園中高校長としてご活躍中です。

校長先生・教頭先生をお迎えして

青葉会
会長
石田弘

このたび、四月より学校長に藤川侃二先生、教頭に内藤伸先生がご着任になりましたこゝに教職経験豊な温厚で誠実なお人柄の両先生をお迎えすることが出来ましたこと、会員一同喜びに堪えません。

校長先生には教育庁体育部ご在任中、かつての東京オリンピックでの運営遂行に尽力され、更に学校体育はもとより社会体育振興の基礎づくりに大いなる業績を重ねられました事。また、教頭先生には現場教育実践の達人としてご在任校々のPTAはもとより他校の方々までが羨望の的であった由、うけたまわっております。

こゝに両先生の数限りない業績を耳にするたびに私ども幸福感にひたり乍ら、青葉会名誉会長、副会長それぞれにご就任いただきますこと尚々会員一同大変な誇りであり喜びでご座います。

どうか、校長先生、教頭先生この未熟な私どもではご座いますが、また校務の傍ら大変とは存じますがこの青葉会もよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

青葉会—総会・懇親会

日時　11月23日(土)
13時～16時
場所　母校音楽講堂
会費　一名二千円
（当日受付）

昭和60年度
『青葉会』の集い
—誘い合って参加しよう—

◇青葉会の運営◇
—各クラス幹事の推せんを—

会は会長を始めとする役員と各年度学級幹事によって運営されることになっておりますが、卒業時に選出された幹事さんはその後、郷里したり住所が不明であったり等して殆んどが連絡とれないで、大変困惑している現状です。ご承知のようにそれぞれのクラス幹事が不在でありますとそのクラス員への連絡はおろか完備した名簿も出来ません。組織あって組織なしと言う状態で、役員と一部有志の人達によって、「ともがき」の作成発行、「青葉会の集い」の開催をして来ております。よく処処でそれぞれの「クラス会」、「同期会」等々が開かれているニュースは耳に入って参ります。それはそれなりに結構ですが母体となる同窓会（青葉会）への連絡へのご協力をとっていただき、また世話人を是非推せん下さるようお願い致します。

愈々母校も昭和64年に「創立六十周年」を迎えることは周知のことと思いますが、それを機会に青葉会では54年度に発行致しました「会員名簿」の改訂発行をも企画準備しておりますので、会員一人の漏れもない完備充実した青葉会にしたいと念願しておりますのでご協力お願い致します。